



学校便り

No. 9

# 夢・挑戦

令和2年2月25日

水俣市立水俣第二中学校

校長 高橋 裕二

## 「稚心を去る」「我慢・忍耐・辛抱」!!

立志式に、2年生には2つのことを話しました。1つ目は、「稚心を去る」という言葉です。生徒用玄関にも大きく掲示してあり、生徒の皆さんも知っていると思います。この言葉は、幕政の改革を訴えた福井藩の橋本左内という人が残した言葉です。1859年大老となった井伊直弼より安政の大獄が始まり、その結果、左内は命を落とすことになりました。左内は、15才にして『啓発録』を執筆し、以下の五項目からなっていました。

(1) 13～14才になったら大人に頼るような子供っぽさは捨てる (2) 士気を鼓舞してゆく (3) 志を立てる (4) 勉学に励む (5) よりよい人付き合いを目指す

子供っぽさ、つまり「稚心」は、様々な解釈ができると思います。例えば、自分のことばかり考え、自己中心的である(他人への思いやりや配慮が足りない)、やらなければならないことはしない(勉強や宿題、あいさつ)、自分の好きなことや楽しいことだけする(スマホやゲーム、趣味・特技、部活動)などではないでしょうか。左内は、夢や希望、目標を達成するため、自分を変える

第一歩が「子供っぽい心」を捨て去ること、つまり「稚心を去る」ことだと考えました。



【1年 職業講話】

2つ目は、「我慢・忍耐・辛抱」です。夢や希望、目標を達成するためには、楽しいことより、むしろきついこと、辛いことの方が多いと思います。そんな時に、すぐに諦めたり、投げ出したりしてはいけません。ねばり強く、耐えなければなりません。したがって、勉強や部活動など、何事にも「我慢・忍耐・辛抱」が必要になります。元メジャーリーガーの松井秀喜さんは、「努力を継続することが大切である」と語っておられます。「我慢・忍耐・辛抱」と同じような意味ではないでしょうか。

夢や希望、目標の実現のためには、「稚心を去ること」と「我慢・忍耐・辛抱すること」の2つを、学校や家庭、そして将来社会に出て仕事でも実践してほしいと思います。

## 熊本県学力・学習状況調査の結果分析

11月に1・2年生が熊本県学力・学習状況調査を受け、先日結果が出ました。昨年度までの5教科から今年度からは3教科実施に変更になりました。調査結果を分析しましたので、お知らせします。

熊本県学力・学習状況調査 ※総合定着率(%)

	1年			2年		
	本校	県	県との差	本校	県	県との差
国語	66	66	0	65	65	0
数学	60	60	0	53	55	-2
英語	56	53	+3	46	50	-4

※本校及び県の数値は小数第1位を四捨五入しています。

### 【成果や課題】

- 1年は、3教科とも県平均以上であった。
- 2年は、昨年度は5教科中4教科が県平均を上回っていたが、今年度は2教科が県平均を下回った。
- 1・2年ともに、学力が二極化している。
- 質問紙調査では、「規範意識」「社会参画」「読書」「学校生活や人間関係」の項目で良い結果だった。
- 平日に、ゲームやスマートフォン等を3時間以上使用する生徒の割合が、県よりかなり高かった。

### 【今後の対策や取組】

- ◇学力の二極化解消のため、教師の授業改善を行うとともに、朝自習や補充指導などを充実する。
- ◇数学以外も、計画的に基礎学力テストを実施する。
- ◇家庭学習や家庭での生活習慣の定着のため、生活ノート等を通じて、さらに家庭との連携を深める。

先日、元プロ野球監督野村克也さんが亡くなりました。『野村ノート』をはじめ、多くの著書が出版されており、私も10冊以上読みました。野村監督は高校卒業後、南海(現在のソフトバンク)にテスト生として入団し、1年後には退団を言い渡されましたが、「帰りに南海電車で飛び込む」と言って退団を逃れたそうです。その後、戦後初の三冠王となり、ホームラン数も王選手に次いで歴代2位です。名言もたくさんありますが、最近知った言葉に、『野球に学び 野球を楽しむ』という言葉です。野球は「しごと」と読むそうです。学び続けることと楽しむことは、生きるうえで、とても大切なことだと私も思います。野球の部分で、「学校」「数学」「人生」などに代えてもいいと思います。1月に同じ84歳で亡くなった父とも重なり、いっそう寂しさが募りました。